

■ 北方海域技術研究委員会 令和元年度 定例会の開催

日本技術士会 北海道本部 北方海域技術研究委員会

2019年10月10日に北海道開発局留萌開発建設部会議室において、「北方海域技術研究委員会 令和元年度 定例会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会、後援：北海道開発局 留萌開発建設部）を開催しました。本定例会は、北海道各地域に開催場所を設定し、地域に関連の深い講演テーマを設定して、港湾・水産関係技術者の技術力向上、及び技術者同士の交流を目的として毎年開催しております。今回も留萌開発建設部の全面的な協力のもと、3つ講演と活発な意見交換が行われました。

留萌開発建設部次長の飯田誠氏には「生産空間の維持・発展に向けた留萌地域の取り組みについて」（写真1）と題して、地域の交通ネットワークや北海道総合開発計画の現状を押さえたうえで「world café in RUMOI」や「留萌地域広域ルートガイド」など、留萌開発建設部における地域活性化に向けた取組を紹介していただきました。続いて、留萌港湾事務所第2工務課長の中島秀行氏より、「ナマコ資源活性化プラッ

トフォームの取り組みについて」（写真2）と題して、留萌地域でホタテ、サケに継ぐ栽培漁業の主要魚種となっているナマコについて、増毛地区の「ナマコ資源増大対策」や苫前地域の「稚ナマコの生育実態調査」など、管内各地域におけるナマコ資源増大の取り組み内容の紹介と今後の課題や検討事項について紹介していただきました。最後に、「日本海でのホタテ養殖と問題点」（写真3）と題して留萌振興局留萌地区水産技術普及指導所留萌南部支所長の富安俊氏より、地域のホタテ養殖の現状、地域の担い手不足などの現状など、北海道における代表的な輸出水産物であるホタテ漁業の現状について非常に分かり易く、軽妙な語り口で紹介いただきました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、民間企業等より約48名の参加がありました（写真4）。主催者の一員として、ここに記して謝意を表する次第です。



写真1 講演者の飯田次長



写真2 講演者の中島課長



写真3 講演者の富安支所長



写真4 会場の様子